

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

長野県 小谷村

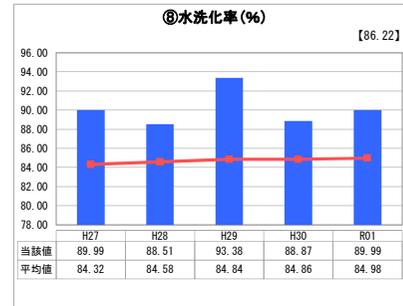
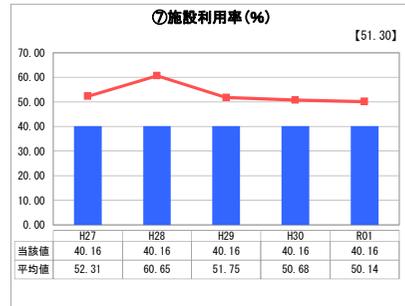
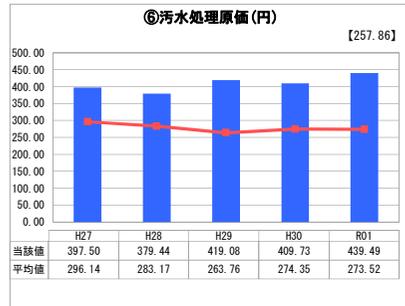
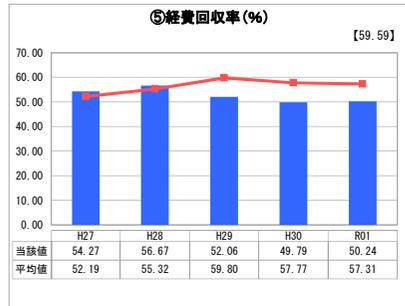
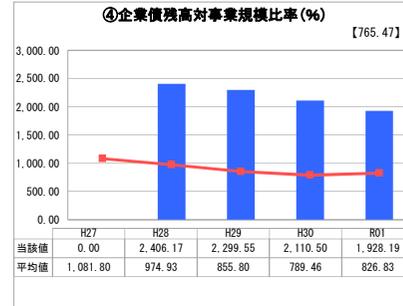
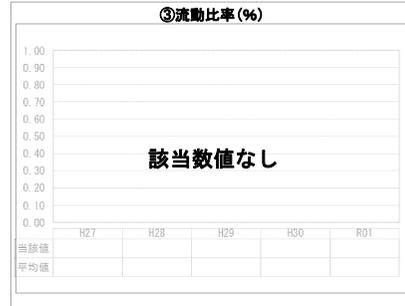
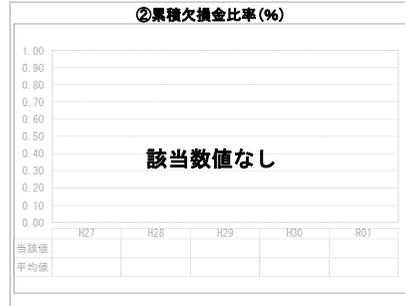
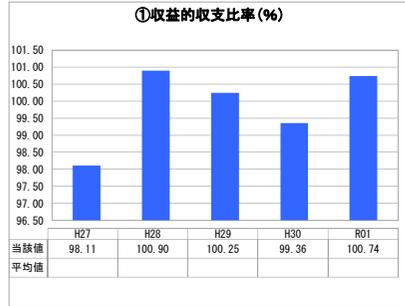
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.47	66.42	3,980

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,965	267.91	11.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
689	0.33	2,087.88

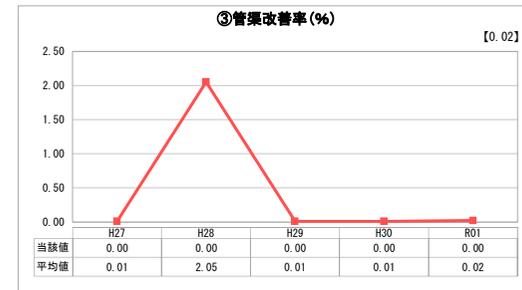
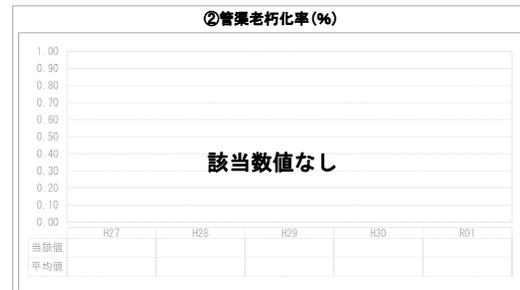
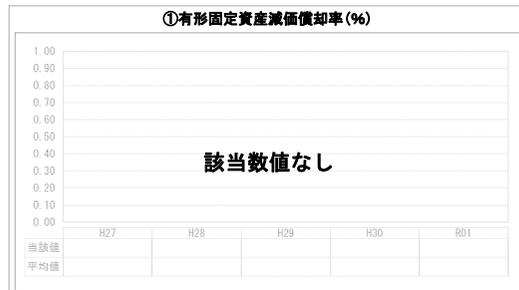
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当農業集落排水事業は、4か所の処理施設があるが過疎化により4施設とも計画人口を下まわっており、施設利用率が低いことから汚水処理原価が高く経費回収率が低い状況である。今後も人口増加が見込めず、地理的制約から施設統合は困難であり、現行の運営を継続する予定である。収益的収支比率については100%近いが、使用料収入の外一般会計に依存する部分大きい。企業債残高対事業規模比率は減少傾向にあるが、今後施設改修等により増加するものと考えられる。水洗化率もほぼ横ばい傾向であるが、加入者増加を目指す努力を進める。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から20年を経過する施設も多く、4処理施設とも機能強化事業を実施している。今後も適正な維持管理に加え計画的に老朽化対策を行っていく必要があるが、財源確保が課題となる。

### 全体総括

今後も人口減少等による使用料収入の減少が見込まれる。更なる経営環境の改善が必要ではあるが、急峻な山間地に4処理施設が散在しており、施設統合は出来ない状況である。今後とも経費削減に努めるが、一般会計からの繰入を頼らざるを得ない状況である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。